1】日刊(除日曜) 昭和25年10月6日 第三種郵便物認可 昭和26年7月19日 運輸省特別扱承認第684號　磐城日日　昭和26年(1951)9月19日(水曜日) 第336号

磐城日日

発行所 磐城日日新聞社
福島縣石城郡小名濱町辰巳五一
電話代表三八七番 二一九番
振替仙台31,355番
編集兼発行人 長瀬芳郎

大器志賀氏は立たず 御代團長決然起つ

小名浜町消防團長後任

小名浜町消防団長は来る二十六日をもつて任期満了となるが後任団長をめぐり一部團幹部や町會議員の策動が早くも開始され、今日まで政黨色のない消防團に魔の手を延ばしつゝあるやに聞く、巷間つたうるところによれば後任團長として長瀬彰義、野崎貞行、志賀要平、黒澤廣の諸氏に現団長御代龜太郎、副団長樋口二郎氏等がクローズアップしている

この團長後任問題について波紋の一石を投じたのは過日某分團長が懇談會という名目のもとに各分團長を招じその席に於て後任団長の推選を行つたのがそもそもの始りでその際噂にのぼつたのが野崎貞行、黒澤廣、長瀬彰義、樋口二郎氏らであつた、結局は候補者外より物色した方が当り障りなく穏當ではないかとの意見が強く志賀要平氏ならば無難と大体意見の一致をみたものらしい、そのため志賀氏に逢つて出馬交渉をなしたところ團の總意によつて推選されるならば考えてみよう、然し他に候補者があつて爭うようなことでは絶体に出ないとはつきり自分の態度を表明された、志賀氏を知る人は將來の町長として尊敬もし期待もしている、また本人としても自分として將來大きな構想をもつていると言明しているとも聞くが志賀氏の場合當を得た言と思われる、との問題が起つたとき延びる人材の芽を刈り取るような結果になるのではないかと心ある人々は心痛した程であつた

又一方には前副團長の黒澤廣氏を擁立すべく暗中飛躍をなし今日平和に運營されている消防團に政治力を滲透させようとする某町會議員の悪辣極まりなきからくりが行われていることは事実だ第一單なる分団長の懇談會に於いて簡單に決定したということは團の總意によるという点よりみても甚だ遺憾と思われる、いやしくも消防団は二萬七千町民の生命及び財産の保護に任ずる重大な使命をもつもので、團員上下同僚はお互に敬愛し禮節を重じ信義を厚くして常に言行をつゝしみ、如何る場合に於ても團並びに団長名をもつて特定の政黨や政治團体を支持または反対しその他他人の紛議に關與すべきでないことは消防團員としての鐵則であると思う、後任團長の問題に對しても第一に現團長の意思表示を受けることが道であり上司に対する禮でもあると思われる、しかるに四年間親として勞苦を共にしてきた現團長に対して何等の交渉も話合もしないとは陰に陽に自薦他薦を擁して消防團に魔の手を延ばす徒輩と何等變るところなく信義も禮節もないその行動に對しては町民として納得の出來ないものがある、志賀氏擁立も一部の人々の會合によつて決定づけたことは明らかで団員の總意によるものでなく、現に御代團長に對し團員が再出馬を懇請すると共に激勵していると聞く、分團長や幹部諸公が何にも知らぬ團員に對して命令的に事を運ぶとすればこれこそ個人の自由意思を無視するもので民主社會より絶体に排斥せねばならない

御代團長も團員各位の強いての推めにより再度小名浜消防團のため身命を打ち込む決意をなし町民の生命財産を護るべくとゝに再出馬することを明らかにした、幸い志賀氏も御代氏の意を了とされて出馬しないことになつたと聞きこゝに於いて波乱を思わせた團長後任問題もスムースに進行するものと思われる

印刷の御相談は
事務一般印刷物 並洋式帳簿製造
株式會社 ナガセ印刷所
小名浜町電話219番

サンマ輸送計畫

片浜で八六七万貫

サンマ解禁を目前にして今年の水揚げ港に小名浜江名、中之作、四倉、久之浜が縣下で指定され輸送の完璧を期するために過般湯本公民館に於てサンマ輸送協議會を開催、關係當局と連絡をなし縣内の福島、郡山、白河、若松方面の朝賣が出來得るよう配車を決し國鐵の輸送計画を次のように決定したが今年サンマ漁況よりみて相當の豊漁が予想され輸送計画を上回るものとみられている

小名浜=九月一万貫、十月十八万貫、十一月百一万九千貫、十二月七十八萬八千貫

江名、中之作=九月十一万二千貫、十月百二十八万九千貫、十一月二百六十七萬貫、十二月百十一萬五千貫

四倉=九月二千貫、十月二十万貫、十一月七十一万五千貫、十二月二十九万二千貫

久之浜=十月一万五千貫十一月十八万八千貫十二月八万四千貫

なお二十五年度の水揚げは計七百五十一万九千八百六十一貫でそのうち國鐵の輸送量は三百六十万九千六百貫であつた

街の音盤

この程湯本町公民館に於て行われた縣教員組合石城支部主催の教育研究大會第二日目第二分科会に於て渡邊正保先生は「職場生活の民主化とその具体策」を発表したが論たまたま現代教員タイプに及ぶや戒名によつて教員の意識を分析満場の會員を抱腹絶倒させた、死なないうちにかくも有難い戒名を頂戴した職場障害重病患者は自分の墓碑に刻る最も適切な戒名を選擇されたくあなたは次の何れの戒名を頂載致しますかと校長に對して

①名譽院職員搾取吸血居士
②金力院職員一途頽廢居士
③經驗院無能封建大言居士
④老衰院日本教育衰乏居士
⑤老猾院狐狸變化蝙蝠居士
⑥共謀院悪刺陰謀大腰居士
⑦熱血院温厚公平民主教育居士

教員に対して

①天狗院自稱私設校長居士
②ダラカン院信念皆無唯一飲酒居士
③親力院權力乱用應柄居士
④名聲院未來校長名譽獲得八方美人居士
⑤悪質院教職不適暴力居士
⑥沈默院島國根性賞讃居士

とて教職員に對して有難くない戒名を贈つた

週間豫報

不連續線は十九日おそくから二十日はじめにかけまた二十二、三日頃當地方を通る

二十日前後は風型で時雨模様二十二、三日頃は北西の風弱まり雨模様

國際連合の基礎的事項 ②

◇安全保障理事會

トルーマン大統領は前々から太平洋防衛計画を明かにしていた、それは既存の米比防衛協定と米、濠 ニュージランド三國の相互安全保障協定と日米相互安全保障協定とを新しく結ぼうというものであつて、米國を中心とする多角形協定によつて成立する防衛体制である

われわれはこのように米國を中心とするいくつかの安全保障協定にまつととが、最も實際的であるといえよう

安全保障理事会の主要な任務は平和の維持である國連參加の諸國はすべて理事會の決定を承認し実行することに同意したのである

理事會は七人の委員より成立し中國、フランス、イギリス、ソ聯及びアメリカ合衆國が拒否權を持つているのである

以上の諸國以外の委員は二年の任期を以つて選ばれ拒否權を有しない

われわれは講和締結後の日本を守る最も實際的な方法である見解をもつている

理事会は紛争の解決に平和的手段を選ぶが必要とあれば朝鮮に於ける様に実力を以て行使する事もある、米國が日本に軍事基地を獲得するという性質のものではなく米英間の協定や北太西洋條約諸國間の協定のように、共同防衛に必要な措置として考えられるということを、暫定的な安全保障協定では、日本に何事かをせよということは要求されず、一方的に日本を防衛することとであろうということ

日本の自由意志によつて日本も自國の安全保障に努力しなければならないというのである

これは具体的には日本は自衛のために何らかの軍事力をもつということを意味するであろう

われわれはいわれるまでもなく日本が自衛のために何をなすべきかということは日本人が考えねばならない重大な問題である故に憲法第九條に便乗して目をつぶつているわけにはいかない

◇信託統治制度

國際連合は信託統治制度を立てこれを直接に運営している、舊國際連盟委任統治並びに舊樞軸國領土を自發的に併合された植民地の一部を信託統治制度の下におかれている信託統治の任に當るのは一國又はそれ以上の國であり、或る場合には國際連合自体である、信託統治制度の下に置かれた領土は「信託統治領」の名称で呼ばれる。統治條件と統治者に關する協約に就いては國連總會の承認を受ける必要があり、國連總会はなお協約條項の修正に同様の承認を與えねばならない

但し信託統治協約の下に信託統治領の全部若しくは一部を世界平和の維持に不可欠の「戰略地域」に指定する事が出來る、例えば

アメリカ合衆國は舊日本委任統治のマリアナ、マーシャル、カロリナ群島をその様に指令している

○○○

★★★ 祝講和條約締結 ★★★

植田町役場
町長 渡邊國之助
助役 吉田信雄
收入役 古川二郎
外吏員一同

呉羽化学工業株式会社 錦工場
工場長 渡邊恭三
副工場長 山縣孝雄

錦町役場
町長 高木武一郎
助役 助川庄次
收入役 田邊保孔
外吏員一同

講和記念特別貯蓄運動
9月10日より 10月20日まで

菊多地區金融團
東邦銀行植田支店 支店長 小林保治
常陽銀行植田支店 支店長 藤田武
植田信用組合 組合長 赤津庄兵衛
東邦銀行勿來支店 支店長 久保木廉
東邦銀行泉支店 支店長 關宏吉

大東無盡株式会社 植田支店
支店長 淺野英男

株式會社福島無盡金庫 植田營業所
主任 大越丈三

江名町臨時町會
港灣ふたん金が問題
江名中学校の増築も可決

江名町会は昨十八日午前九時より江名町警察署階上に於いて臨時町会を開催、左記の案件に対して協議した
◎瀧倉地先公有水面埋立施行の件
◎特別會計昭和二十三年度瀧倉地先公有水面埋立歳入歳出追加更正豫算の件
◎寄附採納の件
◎昭和二十六年度江名港修築事業費負担の件
◎江名町税條例中改正條例設定の件
◎江名町固定資産評價審査委員会條例設定の件
◎固定資産評價審査委員会委員推薦の件
◎江名自治会借入金につき保證の件
◎町費寄附の件
◎第一小学校々舎修理工事施行の件
◎江名中學校増築の件
其の他自治体警察維持に關する住民投票結果の報告と自治体警察廢止に伴う警察吏員に慰勞金贈呈の件

當日の議題の中心は本年度江名港修築事業費負担の件であり、これは本年度に於いて施工される江名港修築事業費一千七百九十五万圓に對する三割五百三十八萬五千圓を町に於いて負担するもので熱烈な討議が取り交された、先づ中田町長が江名港修築に就ては早期完成を期していたが縣としても修築に對しては協力しておりたゞ予算の操作面に於て難点がありその後縣費や起債面に大巾な削減をうけ資材状況も悪化したため總工費に對する三割の五百三十八万五千圓を町に於いて負担することの提案に對して坂部正男町議より

この提案には賛成する然し町当局は財政に於いて支障なき様關心を拂つているのか、町に対して過重な負擔を掛けることはどうかと思われ町の善處方を要望するものである

又、一面起債をもつてこれに充当する場合果して町民が今日の税金さえ納入出來ない現状にあるとき現在の負擔は、港灣増築のために町の財政状況よりみて負擔する能力があるか、また修築に關する起債の決定に就いてはすでに決定したと聞くが二十四年度分の四百五十万が果して妥當かどうか昨年の例をみれば約三百七十万圓と思うが町自体港灣修築二百三十万に限定された、起債額をもつと下げるか地元町民に起債の負担をかけるのが妥當か、年七割位を年度償還に當ててはどうか（以下續報）

さんまの南下速し
共盛丸よりの漁況報告

福島縣小名浜水產試驗場の昨十八日の発表によりサンマ總合漁況は左の通りである

指導船共盛丸は八月二十三日北緯四十二度五十分東徑百五十一度二十分（根室正東二六〇浬）の海區に於て相当濃厚なるサンマ魚群を発見し魚群南下の速かなるを思わせたが本月上旬暖流の北上が旺盛となり一時南下は緩慢となつたが中旬に入り再び寒流の南下が著しくなり水溫十六度—十七度の適水帶は十七日の調査に於ては北緯四一度以南に迄南下し東徑百四十度二十分北緯四十度五十分（八戸正東三一〇浬）附近に有望なる魚群が發見され魚群南下速度はかなり速い模樣である、体長二十七糎三年魚が大部分である

北海道沿岸の漁場は暖流に壓迫され極度に接岸し落石から釧路十五浬以内が漁場になつており、厚岸釧路に於ける水揚げは一日八千貫から二万貫である

大槻町長ら泉村を視察

十七日午前十一時安積郡大槻町長瀧田信二氏、町会議長見矢木平氏ら議員一行二十四名は泉村役場を訪問泉村勢の大要を聽取後、田畑、宅地、山林等面積、人口、産業別世帯教育、農産物、水産物の状況、その他歳入歳出等行政視察をなし午後二時歸町した

庶民住宅の詮衡會議

小名浜町隼人の公営庶民住宅は既報の如く十戸に對して二八六の驚異的申込者あり、入居者決定には結局詮衡委員を擧げ候補者を選定の上更に抽籤となる模樣で明二十日午前九時より町役場會議室に於て詮衡会議を開くことになつた

尚該住宅は入居出來得るばかりとなり去る十七日竣工檢査を行つた

泉の農業委員會
麥類供出の督勵等決定

泉村農業委員会では十七日午後一時より役場會議室に於て開催会長鈴木孝章氏開会を宣し吉田倉雄氏より八月三十日、九月十日行われた小委員會の報告をなし議事に入る

議案第一號農地問題について

大字下川區長瀧内和吉氏より賣渡嘆願書が提出されているに関して牧野幸次郎氏との問題を委員会に於て妥協に奔走することになつた

議案第二號水稲作況調査について

本年度産米供出方法は検見によつて實行したいという地方事務所の意向を説明委員会では十月上旬頃村内を検見することに決定

議案第三號酸性土壤検定結果報告について

米供出分は今月二十日迄に完納するよう、二十日後は督勵班を編成して完遂すること

現状の供出状況は七三%一

議案第五號早場米供出割當について

十月十五日に四十俵、十月末に六百俵の割當となつており十五日までに供出した分に對しては一俵当り百六十圓十月末の分は六十円の奨勵金が交付される

その他農業委員会並に書記に對し指導協議会が來る二十八日平市公会堂に於て開催されるにつき出席方を要望して午後七時終了次回は本十九日午前九時より再会することになつた

理事長は本田氏
小名浜木材協組結成

小名浜町木材業者十三名は去る十五日玉屋旅館に於て總会を開催して小名浜地區木材協同組合を結成役員を次の通り決定した

理事長　本田　谷平
理事　瀧澤　松儀
仝　小野　長壽
監事　小池　利己
仝　初瀬　長松
會計　吉田　正

全國書道展で金賞獲得

山口縣立防府高等學校主催第一回全國學生書道展覧會に於て審査の結果四倉高校より次の通り入賞した

金賞　大和田佳子（三年）
銀賞　箱崎　友子（一年）
仝　会田　好子（一年）
褒狀　賀澤香世子（一年）
仝　梶原　智江（一年）
仝　吉田　敏子（一年）

天氣豫報

【本日】北東のち北の風朝のうちはまだ小雨が殘るところもありますがのち曇がちの天氣となります【海上】波立ちますが大したことはありません

魚菜市況 18

【小名浜中央青果市場】
▽丸大根一五—四〇▽なす三〇—四〇▽きうり一五—四〇▽玉ねぎ五五—六〇▽里いも六〇—八〇▽なた豆二〇—五〇▽人蔘六五—八五▽さつま六〇▽馬鈴薯五〇—五五▽牛蒡七六—八〇▽大根二五▽卵九—一二、二

【小名浜魚市場】
▽すゞき八五〇▽またい七二〇▽いなだ三〇〇▽かます二五〇▽さば一二〇▽小あじ一二〇▽わらさ三四〇▽太刀魚三二〇▽いか二〇〇—二一〇▽えび七〇〇—八三〇▽ぎす九六—一一〇▽たこ一〇六▽かつを一二五—三一〇（水揚二〇〇貫）

『山で見る幻影』
靈に招かれた男 ⑤

寧ろ荒狂う山の姿がほんとうに好ましいもののように思われ、自分も山の靈の一翼を背負つて山を荒し廻つている樂しささえ感じていた。ウインド・ヤッケでさえ吹き飛ばされそうな阻路をそうろうとして本岳頂上に向つた山田君の姿は間もなく千疊敷カールの方からむしり取つたように流れて來た雲の中に消えて行つた、頂上まで這いながら上つていつた山田君は餘りに劇しい風雨に身をまるめて頂上の神社の陰に隠れて難を避けていた足許には雨に濡れたミヤマ・ウスユキ草の可憐な花が捲き込んでくる風に生きている虫のように震えているのである、轟々と唸る山頂の風は山一杯に擴がり、何處を見廻しても視界は一間先へも届かない、山田君は追々に追つてくる寒さに手をとすり愉快そうに悪魔の世界かと思われる景色に見とれていた、昨夜聞いた遭難の話が亢奮した頭の中に夢のようにまた思い出されて來た、皆んなその時の人達がこの荒れ狂う山の中に生きているんだなと考えた

山田君は一息入れると勢よく山の反對側の石傳いにしつかり足を踏みしめ風に倒されない頑張りを續けて馬の背附近に見当をつけて歩き出した、うつかりすると横なぐりに雨と一緒に宙を飛んで來る石礫に顔を滅茶々々にやられそうである、何時の間にか服はびつしより濡れて肌まで水氣は透り冷いものが腹の底まで泌み渡る、また劇しい風が一しきり足許をさろうばつたり伏せた山田君は思い切つて尾根の北側を選んで下り始めた、必死になつて約二百米ばかり降るとそこは大分風勢もそがれているので袖の雫を絞つて一休みした

それから小一時間風雨にもまれてやつと馬の背附近と覺しき處に着いた、足許に今を盛りと咲き乱れるシナノ・キンバイや姫百合、ツガザクラの群生している處はたしかに此の山の御花畑の續きである馬の背附近だと見當をつけた、山田君はそこで岩間に風をさけて時計を見た、午前九時半を示している、小屋を出てから三時間もかかつている事が判る、隨分難行だつたものだと思う、幾分腹も空いているのでリュック・サックより堅パンを取り出して嚙る、濡らさないように皮袋の中から手帳を取り出して克明に朝出てからの道順と時間を記して見る、マップ・ケースを出して想像した自分の歩いたコースを見たが今までかかつて二キロ半しか歩いていないらしい、磁石と對照して自分の位置を決定して見た多分馬の背から北へ少し下つた處で農ヶ池は直ぐ自分の下手一キロ位の處にあるものと考えられる急に自信がついてきたので元氣が出てきた、山田君は全身に漲つてきた力を感じて嵐の吹きまくる岩の外へ仁王立ちに突立つてみた、何時の間にか自分の周圍は一寸先も見えない濃霧に取りかこまれているのに氣づいた、山の霧はひどい、それこそ自分を中心として一寸の隙間もないように立ちこめて自分自身の身体も下の方を見下して行くと腰から下は乳白色の空氣の中に消えてなくなるのである、つまり自分の足許が霧におおわれて見えなくなつてしまうのだ、ぢつと立つているとジーンとした感じの中に自分の身体が何處か夢の國へ吸い込まれて行つてしもう、慣れない人は急に不安を覺えて息苦しくなつて窒息しそうな焦燥を感ずるものである

お知らせ

本社は町政、教育、文化、其の他について投書を澤山頂戴しておりますが何れも一町民とか無名のものが多くそのために今日未だに掲載出來ないでおります、本紙に掲載するものは凡て住所氏名を明記して頂きたく、もし掲載の場合匿名希望の方は その旨を記して戴けば匿名にて掲載致しますが住所氏名の不明瞭な投書に對しましては絶体に紙上掲載致しませんから念のため御知らせ致します

九月十九日

磐城日日新聞社

女中さん急募（二〇才—三〇才）
蒲燒 壽し
小名浜町
一平
電話四五一番

内科 小兒科
会田醫院
院長 会田亮
小名浜町横町（電一四八）

鮮魚商
魚一
平市田町 電二二八

お知らせ

講和條約締結に伴い在外資産報告書の作成手續事務は九月末日限り中止することとなつた旨通牒が参りました

ついては講和條約調印前後を通じ相当数の届出がありますが尚九月二十日頃迄に届られた分は受理いたし、其れ以後は受付を中止致しますから未提出者は至急御連絡下さい

九月十七日

引揚連盟小名浜支部
惠藤光雄（電一一四）
長瀬大三（電一一二）